

2024年度 放送大学教育振興会助成事業成果概要

1. 事業の課題名

大腸がん予防への理解促進を目的とした仮想空間技術（メタバース）活用の有効性と課題の分析

2. 研究者情報

所属機関名	国立大学法人岡山大学
職 名	助教
研究者・研究 代表者氏名	園井 教裕

3. 事業の目的等

【目的】

仮想空間技術（メタバース）を用いた教育ニーズが高まっている。その有効性を示すことで、大学間の距離の問題などが課題となっている多職種連携教育は充実化する可能性がある。しかし、学習目的に応じたメタバースプラットフォームの使い分けは定まっていない。そこで、大腸がん予防への理解促進のために、複数のメタバースプラットフォームを用い、有効性と課題を分析することとする。

【計画】

1 年次目に大腸がん予防における口腔管理の必要性に関する認識を検証し、その結果を用いた教材を作成するとともに 2 年次目に計画している学習の評価方法を策定する。2 年次目ではそれらを活用し、複数学部で複数のメタバースプラットフォームを用いた学習を実施し、教育効果を比較検討する。

4. 事業の成果の概要

本事業は 2 年計画であり、2024 年度はその初年度にあたる。1 年次目では「大腸がん予防における口腔管理の必要性に関する認識」を明らかにするため、岡山県内で歯科を標榜診療科として持たない 2 病院に勤務する非歯科系医療職を対象に無記名のアンケート調査を実施した。看護師を中心に医師や薬剤師、リハビリ職などから回答が得られた（有効回答率：86%、有効回答者：43 名）。

調査の結果、患者と接する際にがん予防を目的に禁煙を話題とすること「よくある」と回答したのは医師のみであり、他職種はその機会が限られていることがわかった（図 1）。このことから、医師以外の医療職に対して禁煙支援に関する教育や研修をさらに充実化させる必要性が示唆された。

歯科との連携状況については「ほとんど連携なし」「全く連携なし」「わからない」との回答が多く、特に医師以外の職種では歯科との関わりが不十分であった（図 2）。歯周病と大腸がんとの関連性が示唆されることを踏まえると、口腔管理の重要性や多職種連携の必要性を繰り返して示していく必要がある。

一方、個人としての予防意識は比較的高く、歯間ブラシやデンタルフロスの使用、歯科への定期的な受診は、一定程度浸透していた。しかし、歯間ブラシやデンタルフロスについて患者と話題にすることは「ほとんどない」「全くない」と回答した人が多数を占めた。この結果から、禁煙に関する調査結果とあわせて考えると、がんや歯周病の予防教育の実践が十分とは言えない状況であることが示唆された。さらに、職場で歯周病について同僚に伝えるために必要な資料についても「ない」「わからない」と回答する人で占めており、教育資源の整備と共有が課題であることが示された。

これらの結果は、非歯科系医療職が担うべきがんや歯周病などの生活習慣病予防において果たすべき役割を再考し、歯周病（口腔）管理を教育に組み込むための重要な資料となる。本調査は多職種連携の重要性や専門性を活かした予防的介入の意義が学べる教材作成に繋がった。

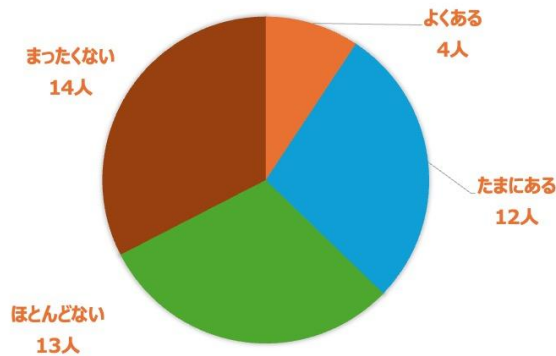
本調査は、岡山大学医療系部局臨床研究審査専門委員会（研 2501-041）に基づいて実施した。当初は、郵送でのアンケート調査などを予定したが、効率性と確実性を考慮し、岡山県内の 2 病院にアンケート調査を依頼した。

2 年計画の 2 年次目で使用する教材としては、「大腸がん」、「歯周病（口腔）管理」、「がん予防」の 3 つを作成した。また、評価方法として「互いの職種への理解」など 5 項目からなるルーブリック形式の評価表（3 段階評価）を作成し、2 年次目では複数のメタバースプラットフォームを用いて教育効果を比較検討する計画である。

さらに、1 年目の実績に基づき、2 年目の計画においては、本事業の確実な遂行を目的に、当初予定していた 1 年次目に作成した教材をそのまま使用する予定を変更し、学生に実施する前に事業代表者・分担者間でトライアルを行い、メタバースプラットフォームによる学習を通じて教材がベストなものであるかを確認することとした。また、本事業に直接関係しない学生などの意見も取り入れ、理解しやすい形にブラッシュアップした上で使用する。加えて、評価方法についてもトライアルで使用し、必要に応じて見直す計画へ変更した。

職業上、患者さんと接する際にがん予防を目的に禁煙を話題にすることがありますか？

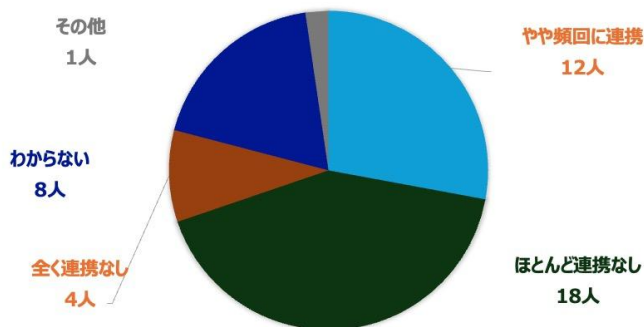
有効回答率：86%（N=43）



*「よくある」と回答したのは全員医師

図 1

ご自身の職場における歯科との連携状況について教えてください。



* 医師は全員が「やや頻回に連携」と回答した一方で、他職種では少数にとどまった。

図 2